

ASAHI MACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち



2021

3

No.772

技を繋ぎ時を紡ぐ
しめ縄づくり



西五百川郵便局

宮宿郵便局

大谷郵便局

郵便局×桃色ウサヒ コラボ 町内の風景印がリニューアル！

2月15日から町内3つの郵便局（宮宿、西五百川、大谷）で使用する風景印（※）のデザインがリニューアルされました。役場エントランスに設置しているウサヒ目安箱へ投稿された「ウサヒの風景印をつくってはどうか」というアイデアを受けて、郵便局と町が連携して風景印のリニューアルを進めてきました。

郵便局ごとに地区の特色を生かしたデザインとなっており、町にゆかりのあるアーティストが手掛けています。宮宿はリンゴとワイン、空気神社が描かれ、デザインはウサヒを生み出したまよひが企画のイラストレーターである佐藤美幸さんが担当。西五百川は棚田とヒメサユリ、朝日連峰が描かれ、デザインは町在住の日本画家山口裕子さんが担当。大谷は大谷風神祭と大沼の浮島、朝日連峰が描かれ、デザインは「大沼の浮島」を題材とした絵画（作品名「東雲」）を制作し、その作品を町に寄贈した画家の田中望さんが担当。新風景印は宮宿・大谷郵便局が昭和52年9月1日以来43年ぶり、西五百川郵便局が昭和27年10月18日以来68年ぶりの更新となっています。

2月15日には、宮宿郵便局にて新風景印完成セレモニーが行われ、関係者約30人が参加しました。セレモニーで



セレモニーにて、左から山口裕子さん、佐藤美幸さん、鈴木浩幸町長、桃色ウサヒ、佐藤徳治宮宿郵便局長、大泉光之西五百川郵便局長、佐竹寿昭大谷郵便局長

※風景印とは
郵便局に配備されている消印の一つで、風景入通信日付印の通称名。郵便局窓口等で申し出があった場合に職員から押印してもらえ、封筒や63円の郵便はがきに押印してもらうことができます。郵送での押印依頼も可能です。

は町内郵便局を代表して佐藤徳治宮宿郵便局長が「大変好評で海外を含め既に400通以上の押印依頼がきている。今後も地元のPRのために協力できることがあれば積極的に取り組んでいきたい」とあいさつ。鈴木町長は「町の各地域の特徴をよく捉え、町民のみならず全国のウサヒファンから愛される風景印となった」と喜びを語りました。

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
町内の風景印がリニューアル！
- P4 特集
東日本大震災から10年
- P10 町政スポット
・「もくえんしよせきふすまそう 嘿焉書跡 襖装（1組）」を朝日町有形文化財に指定
・朝日町優秀技能者表彰 ほか
- P12 新型コロナウイルスワクチン接種が始まります
- P14 まちレポ
・「そばまんじゅう」の動画が公開
・あさひ保育園「ひなまつり」
・オンライン活動報告会
・「若手農業者の会」剪定講習会 ほか
- P16 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策、それいけ協力隊とウサヒ、町立図書館コーナー
- P18 桃色ウサヒのグッズが続々登場、新規就農PR動画公開
- P19 戸籍のまど、となりのリンゴさん、自衛隊入隊予定者町長表敬訪問
- P20 蜜ろうハンドクリーム教室

表紙の写真



2月28日、大沼地内にて大沼浮嶋稲荷神社氏子総代会（小林晴雄総代会長）による「しめ縄づくり」が行われました。朝8時半から6人が集まり、丸1日かけて大小合わせて15本のしめ縄を完成させました。同神社の最上俊一郎宮司は「しめ縄は神域と現世を分かちつ大事なもの。皆さんの協力でも今年も良いものができた」と語っていました。今回完成したしめ縄は5月の例大祭に合わせて掛け換えられます。

町長歳時記 （172）

自分を支える大事な柱

～真面目に生きる

自分の心に正直に生きる～

昔、ある村に年老いた父と息子が暮らしていました。ある日老父の飼っていた馬が逃げ、村人たちは気の毒がっていると、逃げた馬が野生の駿馬を連れて戻ってきました。村人たちがお祝いに駆け付けると、その駿馬に乗っていた息子が馬から落ち、足を骨折してしまいました。それからしばらくすると、村は隣国と戦争になり村の若者たちの多くが亡くなってしまいましたが、足を折った息子は戦争に行かず、死ななくて済んだということです。

これは中国の故事「人間万事塞翁が馬」という話であります。人生は様々な状況変化の連続であり、その時々判断だけでは事の良し悪しは掴みきれないものだと思っています。

今私たちはこれまでにない変化の激しい時代に生きています。こんな時代だからこそ、どんな状況にあっても、自分を貫く強い心を持ち続けていくことが必要です。それには、自分自身に納得した生き方ができたかどうか。その時々生き方・判断が自分の気持ちに忠実であったかどうか。と、自分の胸に手を当て、自分の心に聞いてみるのが大事です。

全世界を覆うコロナ禍。亡くなられた方を含め感染者の爆発的増大。感染拡大を抑えるための「緊急事態宣言」等による人の流れと経済の停滞による社会環境の著しい閉塞感。一方ウェブ会議等の推進によるオンラインシステムの充実発展とAI・コンピューターのさらなる進歩が、今後の仕事環境はもちろん、地域間格差の解消をはじめ、地方のあり方そのものにも大きな変化を与えてくれると思われます。

時々刻々変化する社会状況の中、今がどのような状況にあろうとも、真面目に生きていく。自分の心に正直に生きていく。このような生き方が、未来においても、自分を支えてくれる大事な柱になるものと思います。

朝日町長 鈴木浩幸



鈴木 貞夫さん

ボランティアとして被災地を支援し続けている鈴木貞夫さん(四ノ沢)
「私には仕事の関係で仙台市に多くの知り合いがいました。困っている彼らへ食料品等を届けに行った際、被災地の現状をみたのがボランティア活動のきっかけでした。その後町でも救済物資を送っていましたが、物資だけでなく活動もしなくてはと、町に働きかけ、町を挙げてのボランティア活動となりました」と語る鈴木さん。活動は1か月の予定でしたが全然終わらないというので50日連続で行われました。活動場所は「海の子・山の子」で交流のあった宮城県七ヶ浜町。始めに行ったのはまだ手つかずの状態だった花洲地区で、側溝の泥上げ作業からスタートしました。側溝が詰まっていると水が流れずに泥が上がつてきて住民の方が家の片付けに出来ないのだそうです。「泥上げ作業は本来行政の仕事

なのですが、現地はそこまで手が回っておらず、ボランティアセンターの方と話し、受付時間の短縮も兼ねて泥上げを中心に回してもらいました」。町を通しての50日間の活動でしたが、その後もニーズはまだまだあり、鈴木さんたちは仲間内で被災地に行き、がれきの撤去等活動を継続。翌年朝日町ボランティアの会を立ち上げ、福島県南相馬市や岩手県の水害、新潟県糸魚川の火事等で活動してきました。鈴木さんは語ります。「七ヶ浜町は日頃から高い防災・減災意識があったため震災の次の日にボランティアセンターが立ち上がりました。我々も研修や模擬訓練を実施し、有事の際迅速にボランティアセンターを立ち上げられるよう準備しています。ボランティア活動について、行政の手の届かないところにどう協力できるかということまで考えられるほど活動してこれたというのが一番の学びですね」。



被災地での側溝の泥上げ作業。後ろには、がれきが堆積しています

福島県浪江町に役場職員として勤務していた鈴木創さん(小原)
震災当時は税務課にいて、申告相談の最中だったという鈴木さん。地震で会場がめちゃくちゃになり、その日は解散となりました。次の日には原発事故のため山間部にある津島地区へ全町避難。「車で来てもみんなガソリン切れで動けなくなる等避難が進まなかったです。避難しても、食べ物や赤ん坊のミルク等が不足して大変でした」と当時を思い返します。「とにかく水と食べ物が必要でした。幸いこの時は町が水を準備できましたが、水がなかったらと思うと」。支援物資が来たのは3日後だと言います。「通路で寝泊まりして、24時間鳴り続ける電話を交代で対応したり、髭も剃らず風呂も入らず原始人みたいな見た目になったりと普段できない体験でした」と話していました。



鈴木 創さん



町ホームページで公開している就農者の声を紹介する動画の一コマ。動画については18頁で紹介しています。鈴木さんは#9の動画に出演

平成29年3月、浪江町役場の機能が二本松市の仮設庁舎から元の役場庁舎に戻るというタイミングで鈴木さんは仕事を辞めて朝日町へ移住しました。震災後に祖父の農業の手伝いをしているうちに朝日町でリングを作ってみたくなったのが新規就農です。浪江町の知り合いとはリングを持っていくなど今でも交流があり、この前の動画(左写真)も黙っていたのに見られて連絡がきたと笑顔で話しました。鈴木さんは語ります。「震災で得た教訓というのはいつ何が起るかわからないということですね。やりたいことをやるのが一番だと考えるようになりました。震災がなかったらこんな風に考えなかった。農家をすることもみんなに反対されましたが、実際にやってみて良かったんです。今では畑に出ていないとダメな体になりました」。

特集 東日本大震災から 10 年

～突然の災害に備え私たちができること～

平成23年3月11日に発生し、マグニチュード9.0、最大震度7を記録した東日本大震災。甚大な被害を出した災害から10年が経過しました。震災当時の記憶も薄れつつあった中、先月13日にはマグニチュード7.3、最大震度6強の大地震が発生。この地震で10年前の震災を思い出した方もいたのではないのでしょうか。

地震はいつ発生するかわかりません。東日本大震災から10年という節目を迎えた今、当時を振り返り、「自助」「共助」「公助」の面から特集します。



震災3日前に撮った2人の写真。現在の2人の成長した姿を見ると経過した年月を感じます

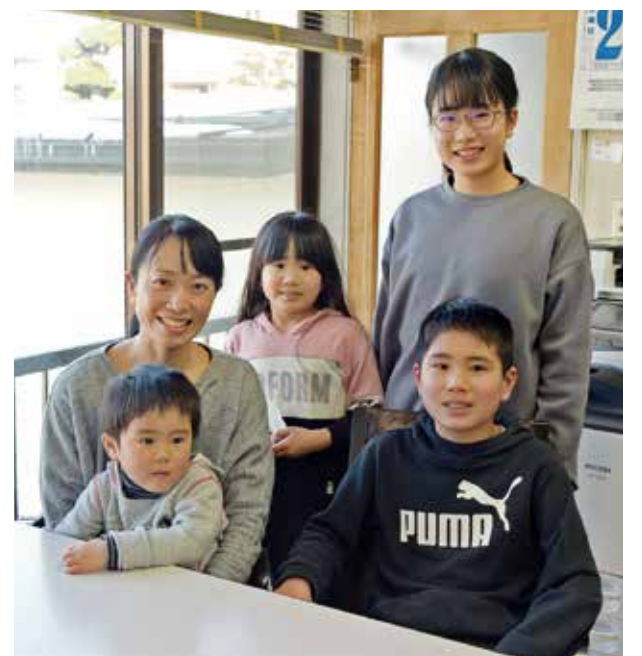
小さい子どもを2人抱えていた阿部万利子さん(四ノ沢)
「もうすぐ3歳になるひゆりは怖がつてしまつて、不安にさせないよう心のケアに気を配りました」。当時を思い返し語る阿部万利子さん。地震が起きた時間は2人ともお昼寝の時間で眠っていました。現在中学一年生のひゆりさんはこの時揺れで目を覚ましたことが一番古い記憶として残っていて怖かったと話します。阿部さんは秀之助くんを抱いて、まさきに別室で眠っていたひゆりちゃんのもとに



震災当時町でも給油に長蛇の列ができ、店の棚から商品が消えました

当時の大変だった記憶も今では大分薄れ、先日の地震の後に防災グッズをチェックしたら賞味期限が切れ

走り、揺れの中2人に覆いかぶさりました。「揺れが収まらなく、これはただごとじゃないと、とても怖くなりました。ある程度落ち着いたら今度はおむつが無くなるのが不安に。幸い義父が新潟までガソリンを買いに行った際に買ってきてくれたのですごく安心した覚えがあります」



阿部 万利子さん(写真左)

震災当時2歳だったひゆりさん(写真右上)と1歳だった秀之助くん(写真右下)、まだ生まれていなかったゆめのちゃんと優志郎くんを抱きしめる阿部さん

ていたり、棚にしまつていたりとすぐに使えない状態だったといいます。「地震は急に起きるので、何をしたらいいかというのがすぐ出てきませんでした。私はどこかで自分は大丈夫と思っているところがあって、今では子どもたちの方が防災意識を高く持っているようです。特に秀之助がキャンプに熱中していて、アウトドア用品が防災グッズとなるのはもちろん、キャンプ技術が生きる知恵袋として頼もしく感じています。『備えあれば憂いなし』の気持ちで日頃から準備したいですね」と、子どもたちを見てほほ笑んでいました。

自助～災害に対する備え～

普段から災害に関する知識を身に付け、何が必要なのかを考え準備をしましょう。また、どんなときに災害が起きるかわかりません。家族内で災害時の約束事なども事前に相談することも必要です。



非常時持ち出し品（例）

◀非常時持ち出し品の一例

- ①リュックサック ②ヘルメット ③軍手 ④着替え
- ⑤カイロ ⑥除菌シート・絆創膏等 ⑦電池
- ⑧携帯トイレ ⑨丈夫な袋 ⑩現金（小銭） ⑪毛布
- ⑫飲料水 ⑬乳児用ミルク ⑭ビニールラップ
- ⑮非常食 ⑯マスク ⑰懐中電灯 ⑱ラジオ
- ⑲モバイルバッテリー ⑳タオル

▼非常時用備蓄品の一例（3日～1週間分を目安に備蓄）

- ①飲料水（1日1人3リットルを目安に）
- ②卓上コンロ ③ガスボンベ ④マスク
- ⑤食料品（米や缶詰、レトルト食品、調味料等）

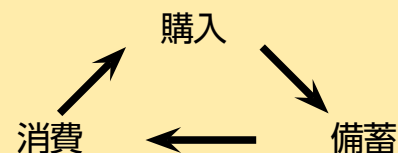
※どちらもあくまで一例ですので、家族構成や家庭の事情に合わせて品物を適宜追加してください。



非常時用備蓄品（例）

ローリングストックのススメ

ローリングストックとは、普段の食料品等を少し多めに買い置きしておき、古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が備蓄されている状態を保つ方法です。



災害に遭った場合
被災し、建物等に被害が出た場合、片付けや補修をする前に写真を撮ることをお勧めします。補助を受ける場合や保険の適用等で必要になる場合があります。

家具の転倒防止
阪神・淡路大震災では死者の8割以上が家屋の倒壊や家具等の転倒による圧迫死でした。家具の安全な配置やL型金具等での固定を行いましょう。

災害時離れた家族との連絡手段
災害時伝言ダイヤル（171）
NTTと各通信事業者により運営され、災害の発生で被災地への通信が増加し、つながりにくくなった場合に提供される声の伝言板です。

録音の仕方
「171」をダイヤル後、「1」を押す、被災地の方の電話番号を入力し、声を録音する。

再生の仕方
「171」をダイヤル後、「2」を押す、被災地の方の電話番号を入力し、再生する。

体験利用提供日
毎月1日と15日等に災害に備え事前に体験することができます。

突然の地震！その時どうする？

地震が発生した時に一番大切なことは「あわてない」で行動することです。そのためには日頃からいざという時にどういった行動をとるか事前に確認し、「心の備え」をしておきましょう。

地震発生

発生から
2～5分

発生から
5～10分

発生から
10分～半日

発生から
半日～3日

とにかく自分の身を守る

大きな揺れを感じたり、緊急地震警報を受けたりしたら、まず身を守り、揺れが収まるまで待ちましょう。丈夫なテーブルの下や、物が落ちてこない、倒れてこない場所に身を寄せ、あわてて外に飛び出さないようにしましょう。



火の始末をして火災防止

揺れが収まってから台所やストーブなど火の始末をしましょう。出火した時はあわてず初期消火につとめましょう。避難する時は電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めましょう。



わが家の安全の確認・確保

家族の身の安全を確認・確保し、テレビやラジオ、行政無線などから災害情報、避難情報を入手しましょう。また窓や戸を開け、避難可能な出口も確保しましょう。



隣近所の安否確認、助け合い

近隣の高齢者や乳幼児がいる家には積極的に声を掛け安全を確認しましょう。家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。



支援物資の到着までしのぐ

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えることが考えられます。この間、日頃から生活必需品（非常用品）を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。



共助～自分たちの地域は自分たちで守る～

協力して助けあう「共助」

共助とは、災害時に自分自身や家族の安全を確保後、近所や地域の方々と助け合うことです。また、日頃から地域での助け合いについての活動に取り組み、非常時に円滑に助け合いができるよう備えることです。

自主防災組織とは

自主防災組織は、地域の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えに基づいて、自主的に結成され、災害による被害を予防・軽減するための活動を行う組織です。当町では55区すべてで組織されています。

改めて必要と認識されている自主防災組織

東日本大震災では広範囲で大規模な被害が発生したことに加え、自治体の庁舎や首長を始めとした職員が被災し、災害発生直後において「公助」が十分に機能しない状況に陥った被災地もありました。そういった状況の中多くの自主防災組織により避難誘導や安否確認、避難所運営の支援や炊き出し等の活動が行われ、大規模災害

害では、地域の方々の備えとお互いの助け合いが大きな役割を果たすことが改めて認識されています。

近年の自然災害が頻発している状況において、地域の防災力の強化が不可欠であり、自主防災組織に対する期待はますます高まっています。

最も早く自主防災組織が結成された大沼区

大沼区はその地理的・人口構成等の要因から町内で最も早く自主防災組織が結成（昭和45年4月1日発足）された区です。区民一人ひとりの防災意識が高く、訓練等の参加率も高い大沼区の小林卓区長に自主防災組織についてお話を聞きました。

「大沼区は町の中心部から距離があり、消防車等が来るのに時間がかかるので、昔から区に住むみんなですべていこうという意識があります」と語る小林区長。現在区内には消防団員が不在ですが、区で小型ポンプを運用して、有事の際には編成表（下図）の役割に従って行動します。4月の出初め式では、区自主防災隊が放水を実施。これは婦人消防隊の方も同様に行って

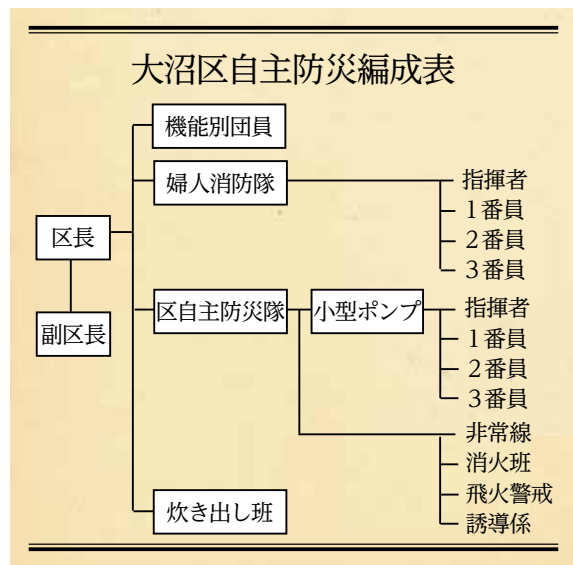


大沼区長
小林 卓さん

います。また、防火水槽や消火栓の点検、月1回の各家を訪問しての予防査察を実施しています。小林区長は「平成30年度町総合防災訓練ではたくさんの方から参加していただき、避難訓練や土のう積み訓練を実施。令和元年度にはAEDを使用した心肺蘇生法の講習を受けてもらいました。最近では毎年のように災害が発生しているので、こうした訓練を通して、有事の際に対応できるようにしていきたいです」と語りました。



大沼区での防災訓練



防災訓練へ積極的な参加を
防災訓練は、1度参加すれば良いというものではありません。繰り返し参加し経験を積み上げることで災害時の危険要因を減少させることができます。また、災害時には近所の方が互いに協力し合い行動することが重要です。近所の方々と普段からコミュニケーションを図ることも防災対策になるといえます。

日頃からの訓練を通して得られた経験やチームワークが、いざという時自分や家族、地域の方の命を守ることにつながります。

公助～町民が安心して暮らせる町へ～

町が発信する情報

令和元年6月から「警戒レベル（左表）」を用いた避難情報が発令されています。レベル3は該当する方とその支援者、レベル4以上は全ての方が対象です。情報は防災行政無線や町ホームページ、町公式ツイッター、エリアメール、車での広報等にてお知らせします。

警戒レベル1 早期注意情報	災害への心構えを高めましょう。
警戒レベル2 大雨注意報・洪水注意報	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
警戒レベル4 避難勧告・避難指示（緊急）	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
警戒レベル5 災害発生情報	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。



防災行政無線が聞こえない場合

無線で放送された内容は電話で確認することができます。
0237・67・2891
防災行政無線放送音声ガイドサービス

落ち着いた避難行動のために

町は左の地図の通り「●避難所」と「●緊急避難場所」を指定しています。「指定避難所」：避難した住民等が必要な間滞在させるための施設
「指定緊急避難場所」：災害が発生、または発生する恐れがある場合の避難場所
どちらも一定の安全性の基準を満たした施設であり、どの避難所も居住地区に関わらず避難できますので、できるだけ多くの避難所を覚えておきま

防災マップの活用

平成29年に町が発行し全戸配布した防災マップには災害時に役立つ情報が掲載されています。災害時の危険区域を示した「ハザードマップ」各種災害対策、防災行政無線の放送内容の種類等、確認しておきたい情報が満載。年に1度は家族で読み、非常時の約束事の確認など防災について改めて話をするきっかけにしてみたいかがでしょうか。この防災マップは町ホームページにも掲載しています。



▼町ホームページ
防災マップへ



- 主な備蓄品**（令和3年3月1日現在）
町では災害時に備え備蓄品を防災備蓄倉庫（前田沢）をメインとして西部公民館、北部公民館、和合防災拠点施設（友和館）に用意しています。
- ・非常食：約1750食
 - ・飲料水：約43トン
 - ・毛布：336枚
 - ・新生児用おむつ：246枚
 - ・サニタリー用品：150個等
- 事業所等との応援協定の締結**
災害時に迅速かつ的確な災害対策を実施できる体制を構築するため、町では市町村や事業所等と応援協定を結んでいます。今回一部を紹介します。
- ・物的援助、人的援助等
 - 県内35市町村、富山県朝日町、長野県朝日村、三重県朝日町、宮城県七ヶ浜町
 - ・生活物資の供給
 - 東日本電信電話株式会社宮城事業部、NPO法人コメリ災害対策センター、さがえ西村山農業協同組合、山形県生活協同組合連合会
 - ・福祉避難所開設、要援護者受入れ等
 - 社会福祉法人朝日町福祉会、株式会社東北福祉企画、山形小木医科器械株式会社
 - ・そのほかの協定11事業所等

令和2年度 子どもの芸術文化活動に係る町教育委員会表彰

■教育文化課 学校教育係 ☎67-3302

氏名	職業（学校）	地区	主な成績
菅井 来夢	朝日中3年	緑 町	山形県省エネポスターコンクール グランプリ
海野 花歩	朝日中3年	元 町	内藤秀因記念第23回水彩画公募展 優秀賞 第12回山形県年金ポスターコンクール 優良賞
佐藤 奏	朝日中2年	小 原	第43回日本剣道少年団研修会書道展 毎日新聞社賞
鈴木 明空	朝日中2年	大谷第四	第36回山形県児童生徒版画作品展 奨励賞
渡辺 陽人	朝日中2年	能 中	内藤秀因記念第23回水彩画公募展 優秀賞 土砂災害防止に関する絵画 優秀賞
遠藤 香春	朝日中2年	栗木沢	内藤秀因記念第23回水彩画公募展 優秀賞
堀 龍空	朝日中2年	本 町	山形県防犯広報作品コンクール 優良賞
菊地 舞	朝日中1年	西 町	内藤秀因記念第23回水彩画公募展 最優秀賞
梅津 知樹	朝日中1年	常 盤	第80回全国教育美術展 特選 土砂災害防止に関する絵画 優秀賞
阿部琥太郎	西五百川小6年	松 程	全国産経ジュニア書道コンクール ジュニア賞
阿部颯二郎	西五百川小2年	松 程	全国産経ジュニア書道コンクール いきいき賞
阿部 正宗	宮宿小3年	緑 町	第36回山形県児童生徒版画作品展 特選
浅岡 愛心	宮宿小3年	宇津野	第36回山形県児童生徒版画作品展 奨励賞
松田依知佳	宮宿小3年	前田沢	第31回読書感想画中央コンクール 山形県審査会最優秀賞 第17回山形県未来の科学の夢絵画展 優秀賞
今井京士郎	宮宿小2年	新 宿	第36回山形県児童生徒版画作品展 奨励賞
長岡 花	大谷小6年	大谷第三	内藤秀因記念第23回水彩画公募展 教育委員会賞
遠藤 悠平	大谷小6年	栗木沢	第43回東北地区剣道少年団研修会山形選考会（弁論大会） 小学生の部 最優秀賞
日本大学山形高等学校放送部 【鈴木 佳乃】			山形県高等学校総合文化祭 放送部 ビデオメッセージ部門 映像作品 準優勝（高文連賞）及び全国大会への出場
朝日中学校第1学年 自治会役員			山形県郷土愛を育む活動推進事業「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」 ふるさと探究大賞
大谷小学校第6学年児童			山形ふるさと CM 大賞作品 作品テレビ特集

例年、生涯学習推進大会と併せて、町体育協会表彰も行われていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止となったため、同表彰は3月20日実施予定となり、結果は広報あさひまち4月号に掲載します。

もくえんしよせきふすまそう

「嘿焉書跡 襖装（1組）」を朝日町有形文化財に指定

■教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118



右から、「驪龍」…あごの下に宝玉を持つ黒光りする龍。
「官租」…官に納める租税。
「易耨」…深く耕せば雑草は取りやすい。
「繡帟」…縫い模様の虎のごとく綺麗な彩り。

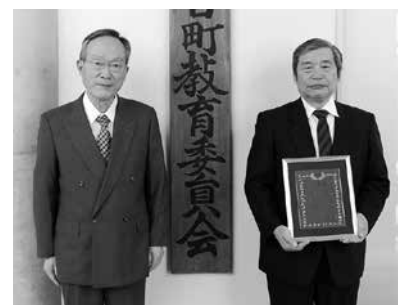
4幅で1組の作品。「驪龍」で商売繁盛・繁栄を祈願し、稼いだのであれば「官租」を納め、「易耨」その後も日々弛まぬ努力を続け、「繡帟」その地位を不動のものとするという意味が込められていると推察される。

1月26日、町教育委員会は若宮寺（八ッ沼）が所蔵する「嘿焉書跡襖装（1組）」を朝日町有形文化財に指定しました。この作品は、松本昇家（現ゲストハウス松本亭一農舎）の奥座敷に保管されていたものが平成20年若宮寺に寄進されたもので、若宮寺中興20世住職盛恬法印（せいてんほういん）（1790～1869）「雅号：嘿焉」の作品です。

盛恬法印は江戸後期から明治初期にかけて、八ッ沼地区の仏教や教育の発展に力を注いだ人物で、晩年に書き残した書跡は県内外に多く残っています。「嘿焉書跡襖装（1組）」は保存状態も良好で美術品としての価値が高く、作者の盛恬法印が朝日町史において重要な人物であったことから、町指定有形文化財に指定されました。

五十嵐義一さんが県スポーツ協会功労賞表章受賞

■教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118



功労賞の盾を手にする五十嵐義一さん(写真右)

3月2日、五十嵐義一さん（舟渡）が山形県スポーツ協会功労賞を受賞したことを小林教育長に報告しました。

五十嵐さんは平成18年度から令和2年度まで14年の永きにわたり、朝日町体育協会副会長、会長を歴任され、組織の強化と円滑な運営に努められ、町のスポーツ振興と発展に寄与されました。この度の表彰はその功績が認められたものです。

この度の受彰を受けて、五十嵐さんは、「これからも町のスポーツ界の振興と発展の一助となるよう尽力していきたい」と語っていました。

朝日町優秀技能者表彰

■総合産業課 商工観光係 ☎67-2113

海野正敏さん(写真左) 左官工として57年にわたり精励
分銅幸夫さん(写真右) 建築大工として50年にわたり精励

2月18日、長年にわたりその職に従事し、町産業界の発展に尽力された方々の功績を

称える優秀技能者表彰が行われました。この表彰は例年、産業まつりにあわせて行われていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、単独での開催となりました。

表彰を受けて、「振り返ってみれば15歳から働いて半世紀以上。これからも現役バリバリで楽しくやっていきたい」と海野正敏さん。分銅幸夫さんは「流石の良さを伝えていきたい」と語っていました。

新型コロナウイルスワクチン接種が始まります

3月5日時点
での情報です

1. 新型コロナウイルス ワクチン接種について

新型コロナウイルス ワクチン（ファイザー社製）は2回の接種によって、95%の有効性で発熱や咳などの症状が出る（発症）を防ぐ効果が認められています。一般的にワクチン接種後には、免疫をつけるための反応を起こすため、接種部の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が起きる可能性があります。

障がいが残るほどの副反応は極めて稀であるもののゼロではありません。治療中の病気があり接種に不安がある方は主治医に相談してみることがお勧めします。

新型コロナウイルス ワクチン接種は、接種を受ける方の同意がある場合に限り接種を行うこととなりますので強制ではありません。ワクチンについて正しく知った上で接種の判断をすることが大切です。



2. 接種期間と対象者

接種を行う期間は令和3年2月17日から令和4年2月28日です。

ワクチンを受ける対象は、接種する日に16歳以上の方で、全額無料でワクチン接種ができます。ワクチンの調達は段階的に進むため、重症化リスクの高い方から次のような順で接種することになります。

- ① 医療従事者等
- ② 高齢者
- （令和3年度中に65歳に達する方）
- ③ 基礎疾患を有する方
- ④ 高齢者施設等に勤務する方
- ⑤ それ以外の方

の順で順次接種が行われます。

3. 接種回数と接種の間隔

2回の接種が必要です。

ファイザー社のワクチンでは、通常、1回目の接種から3週間後に2回目の接種を受けます。

4. 接種を受けられる場所

接種は基本的に住所地で受けることになります。当町では、優先的に開始される高齢者へのワクチン接種について、

- ① 町内医療機関での個別接種（対象：基礎疾患があり定期的に町内医療機関に受診されている方）
- ② 開発センターでの集団接種（①以外の方）

と2つの方法で準備を進めています。なお、入院・入所中の方は施設ごとに対応を予定しています。

ただし、町外の医療機関や施設に入院入所している方や基礎疾患で治療中の医療機関でワクチンを受ける方、住まいが住所地と異なる方は、住所地以外で接種できる見込みです。手続きについては、今後お知らせいたします。

高齢者以外の接種については、順次お知らせしていく予定です。

6. ワクチンクーポン券について（画像左上）

「クーポン券」はワクチン接種に必要な券で、対象者に順次送付されます。クーポン券が届きましたら接種時期が来るまで大切に保管していただき、接種日当日、忘れずに会場にお持ちください。

7. 接種のスケジュール

4月下旬	高齢者へのクーポン券（接種券）送付
5月上旬	高齢者へワクチン接種を進めていくので全員の接種が終わるには3か月程度はかかる見込み
高齢者以外の接種については、接種状況により今後お知らせします。	

8. 接種についての問い合わせ

朝日町新型コロナウイルスワクチン接種担当
（8時30分から17時15分…平日のみ）
0237-84-7755

厚生労働省新型コロナウイルスワクチンコールセンター
（9時から21時…土日祝日も実施）
0120-761-770

【新型コロナウイルスワクチン接種希望調査票】

朝日町新型コロナウイルスワクチン接種希望調査票

〒990-1442 朝日町大字宮前1115番地

氏名 朝日 太郎 性別 男 年齢 65歳

〇以下の質問について、該当する回答に〇を付けてください。

問1. あなたは新型コロナウイルスワクチン接種を希望しますか。
 ① 希望する ② 希望しない

問2. あなたは高齢者に該当しますか。
 ① 該当する ② 該当しない

問3. あなたは基礎疾患に該当しますか。
 ① 該当する ② 該当しない

問4. あなたは開発センターでワクチン接種を受ける際に同意を希望しますか。
 ① 希望する ② 希望しない

※ 開発センターでワクチン接種を受ける方は町が送付を行うことが可能です。無し、送付の希望は地区の住民などになります。

※ 以上で調査は終了となります。

※ 郵送での調査は、この用紙は同封の返信用封筒に入れて3月29日（月）までポストに投函してください。なお、この先の調査は現場点検における意向ですので、ご自身の意向が変わった場合や不明な点などがある場合は、下記へ連絡先までご連絡ください。

今後については、順次ワクチン接種に係るご案内をさせていただきます。

朝日町役場新型コロナウイルスワクチン接種担当 電話: 0237-84-7755

注意

3月15日、高齢者に届くのはこの用紙のみです

ワクチンクーポン券（接種券）は、

高齢者…4月下旬送付予定

高齢者以外の方…決まり次第送付予定

〒990-1442 朝日町大字宮前1115番地

朝日 太郎 様

0001

新型コロナウイルスワクチンを受けられます。費用負担はありません。

年齢等により接種いただける時期が異なります。ご自身の接種の時期が来るまで、こちらのクーポン券は大切に持ちください。

接種券	接種券	接種券	接種券
接種券 1 1回目	接種券 2 2回目	接種券 1 1回目	接種券 2 2回目
氏名 朝日 太郎	氏名 朝日 太郎	氏名 朝日 太郎	氏名 朝日 太郎
生年月日 昭和28年4月10日	生年月日 昭和28年4月10日	生年月日 昭和28年4月10日	生年月日 昭和28年4月10日
接種券番号 1106323100000*****	接種券番号 1106323100000*****	接種券番号 1106323100000*****	接種券番号 1106323100000*****

接種を受ける方へ

●シールは裏がずり、台紙ごと接種場所へお持ちください。

●右側の予約接種済証は接種が終わった後も大切に保管してください。

【新型コロナウイルス感染症ワクチンクーポン券（接種券）】



ホームページに動画



▲鈴木町長もオンラインにて発表を観覧
◀町HPの報告会の動画ページへ飛びます

2/16 地域おこし協力隊・集落づくり協力隊 オンライン活動報告会

2月16日、町で委嘱し活動する地域おこし協力隊3人と集落づくり協力隊1人による活動報告会が行われました。コロナ禍の影響から、今年度の報告会は県内でも初めてのウェブ会議ツールを使ったオンラインでの開催で、約40人の方が参加しました。報告会では、移住推進交流員の村山夏渚隊員と鈴木公人隊員、インバウンド推進員の林以真隊員、集落づくり協力隊の鬼武昌隊員が1年間の活動をスライドで発表。隊員それぞれの報告の様子は町ホームページにて動画で公開しています。ぜひご覧ください。

2/17 技術を磨き、より良いリンゴをつくる 「若手農業者の会」剪定講習会

地区や組織の垣根を越えた20歳代から40歳代の若手農家で構成されている「若手農業者の会（遠藤直裕代表／舟渡）」が2月17日に剪定講習会を行いました。この講習会は町内産リンゴの生産技術の底上げと品質向上を目的に開始しました。この日は若手農家12人が、丸1日かけて4か所の園地を周り、リンゴの木の剪定技術を学びました。参加した若手農家の1人は「この剪定会は就農してから毎回参加していますが、一方的にやり方を聞くのではなく、双方向で気軽に話をしながら学べる良い機会となっている」と話していました。



▲解説を交えながら指導者からの剪定箇所の指示に沿って枝を切る参加者たち



▲音を出すのも難しい「筆築」という楽器を吹く保存会の最上俊一郎さん

2/22 雅楽の優雅な音色を聞き、伝統を感じる 宮宿小6年生「雅楽に親しむ授業」

2月22日、宮宿小6年生の音楽の時間に、浮島雅楽保存会（白田修一代表／大沼）の方々を講師に迎えて雅楽についての授業が行われました。この授業は日本の楽器に実際に触れることで、日本古来の音楽や郷土の伝統音楽に親しむことを目的に毎年行われています。例年、子どもたちが楽器を鳴らしていましたが、コロナ禍のため今回は楽器を手に持って間近で見るという授業となりました。子どもたちは普段なかなか触れることができない楽器を前に興味津々といった様子で学んでいました。

3/7 令和2年度楽笑楽生講座 手作り味噌づくり講座

西部公民館の味噌づくり講座が3月7日と8日に行われ、両日で延べ20人が参加しました。安彦明さん（大江町）を講師に迎え毎年恒例のこの講座は、材料が大豆、麴、塩のみの無添加味噌を手作りします。参加者は自宅で煮込んできた豆をすりつぶし、麴、塩と交ぜ合わせ樽に仕込みました。この時期に仕込まれた味噌は、秋の「彼岸」を過ぎてからが食べごろです。初めて参加した方は「以前叔母からもらった味噌が忘れられず参加しました。できあがりを楽しみ。また参加したいです」と笑顔で話しました。



▲混ぜ合わせたものを一度団子状に丸め空気を抜いてから容器へと詰めます



▲動画にも使われている山口裕子さんによる「そばまんじゅう」のイメージ画
◀朗読は日本語と英語の字幕付
▼動画に使われた子どもたちの絵



▲元気に歌った「うれしいひなまつり」
◀協力してボールを運ぶゲーム

2/9 町の昔話を地域の方言でお届け 「そばまんじゅう」の動画が公開

朝日町に伝わる昔話「そばまんじゅう」の朗読動画が2月9日に公開されました。「そばまんじゅう」とは「朝日町の昔話集第一集」に収録されている、今井千代壽さんから採話した物語です。この動画は、町内外で昔語り活動を展開している「語りの会 つむぎ」代表の成原千枝さん（前田沢）が出演し、方言で物語の朗読を行っています。また、1月16日に開催された「絵本づくりワークショップ」にて昔話をもとに子どもたちが描いた絵の一部とワークショップの講師となった日本画家の山口裕子さんの絵が動画に登場しています。この動画を企画した（一社）希望活動醸成機構の阪野正義代表は「朝日町の方が伝え残す物語を方言でお楽しみください。物語の世界観から描いた子どもたちの絵も必見です」と語りました。

動画は右のQRコードから観ることができます。ぜひご覧ください。



3/3 桃の節句を祝う あさひ保育園「ひなまつり」

3月3日、あさひ保育園で女の子の健やかな成長と健康を願う「ひなまつり」が行われました。

例年園児たちがホールに集まるイベントを開催していましたが、コロナ禍の今年は組ごとに分かれての開催。各教室ではひなまつりにまつわる絵本の読み聞かせやひな壇に飾る菱餅や桃の花の由来について先生からお話がありました。その後、内容の確認としてクイズが出され、園児たちは元気いっぱい手を挙げて答えていました。また、ボールをひなあられに見立て、協力して運ぶゲームなどが行われ、頑張った全員にひなあられと甘酒が配られました。甘酒が配られると園児たちは大人が飲んでいる「お酒」というイメージから大はしゃぎ。実際に飲んでみると、「おいしい！」と元氣よく感想を言う子から今一つという子まで様々。ひなまつりの定番の歌「うれしいひなまつり」を本日の主役である女の子たちが歌い、楽しい時間を過ごしました。



こんにちは。春を感じる晴れ間に心がソワソワした次の日、何事もなかったように雪が降ってきて、まだ浮かれちゃいけないと強く肝に銘じて過ごした2月でした。今回は朝日町に来てからの自分の変化についてお話をさせていただきます。

私は大学を卒業後すぐ協力隊として着任しました。大学時代は、友人や家族、地域の皆さんに助けてもらっていたことが多々あり「いつも助けてもらっていて申し訳ない。早く一人になりたい」と考えていました。するとある方から「二人で生きていくなんて、できるわけじゃないですか」とピシヤリ。言葉は飲み込みましたが、腑に落ちないまま社会へと放



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

「3年間お世話になりました」

移住・交流推進員(地域おこし協力隊) 村山夏渚(中山町出身)



今年の干支である牛柄の格好で鐘をつく村山隊員

たれてしまいました。ようやく一人になった(と思いきや)新生活。仕事はその後一人でやっていたのか不安でいっぱい、慣れない家事、その他生きていくにはお金がかかる…。思い描いていた暮らしから、だんだんかけ離れていきました。

暮らしていく中で、朝日町の皆さんは私に「なちゃん、夜ご飯うちで食べない?」「おい!山登りいくぞ!」「これ手伝ってくださいませんか?」と声をかけてくださいました。自分に何かを任せられること、おいしいご飯をみんなと囲んで食べられる幸せ、誰かと一緒に何かをつくる面白さ、「私って一人では生きていけないんだ!」腑に落ちなかったあの言葉をようやく消化できたのです。

私は昨年、公務員試験を受けました。卒業後も何かしらの形で朝日町に貢献していきたいと思っただけです。4月からは皆さんからいただいたご恩に上乗せして恩返しができるよう、日々努力していきます。

このコラムも3年間読んでいただきありがとうございます。朝日町の皆さん、これからもよろしくお願いたします!



介護予防事業「70歳の楽校」のご紹介

【令和2年度 第11回】
今月の担当…宇佐美 晴枝 保健師



認知症予防体操・脳トレーニングの様子

朝日町では、70歳になられる皆さんを対象に、介護予防事業として楽しい学校を目指し、「70歳の楽校」を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の対策をとりながら、11月から3月まで5回実施しました。

楽校では、医療保険制度等の町からの重要なお知らせをお伝えしながら、健康寿命を伸ばすために、認知症予防体操・脳トレーニング(健康運動指導士)、お口の健康(歯科衛生士)、低栄養予防(管理栄養士)について専門職の先生方から楽しく学んでいた

方はもちろんですが、講座によつては年齢を問わず参加できる公開講座も開催しています。今年度は、認知症サポーター養成講座、終活、ACP(人生会議)について学びました。参加者からは「子どもの遺産相続はどうなるのか」「養子縁組とはどのようなことか」など質問があり、元気づけながら自分の未来を考え、意思を示しておくことの大切さを学びました。

平成28年の町の健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)は、男性が79.69歳、女性が85.02歳となっています。この健康寿命を伸ばすためには、元気づけながら介護予防を始めることが大切です。高齢者が明るく、自分らしい人生を送れるようにすることを目指し、町ではさまざまな介護予防事業を実施していきます。ぜひみなさんで参加ください。

▼問合せ先
健康福祉課 介護支援係
☎ 67・2156



町全体が博物館！ 朝日町エコミュージアム サテライト散策



【一言メモ】写真は四ノ沢堰と案内人のつづやきにある供養塔と記念碑。奥にふれあい荘も見えます。QRコードの地図は供養塔と記念碑の位置を指しています。

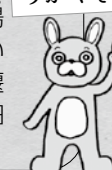
第42回 四ノ沢堰

【DATA】 沢内橋の南、送橋川左岸から取水し、送橋、古槇地内の山を通り、四ノ沢地区山際を経て西原までの約5kmの水路

延宝4年(1676)に中郷(現宮宿)、前田沢、四ノ沢の農民たちが新堰を通して新田を開発してほしいと左沢代官所に訴えました。翌年、代官から長岡戸右衛門に自力で造るなら許すという達しがあり、鈴木和泉、柴田七郎兵衛の協力を得て工事を始め、延宝6年(1678)の春には四ノ沢地内水木まで水を引くことができました。その後、工事の中断もありましたが、貞享5年(1688)には西原までの水路ができて、約40町歩の開田ができました。送橋川の水だけでは足りなかったため、沢上川から水を引く足堰もつくられています。

四ノ沢堰は崩れやすい山の斜面や岩盤を掘って作られたので、維持管理がとても大変で、今でも地区の人たち全員が堰揚げを行って守っているんだ。堰路をたどって行くと、ふれあい荘の東側に四ノ沢堰に関わる「福田供養塔」が「四ノ沢新田堰(ほ場整備事業記念碑)」と並んでいるよ。沢上川からの足堰は日送橋小学校下の川岸に沿って流れているのが見えるんだよ。

案内人のつづやき



「ぼく、うしになる」

中川ひろたか
サトウマサノリ
絵 著

「ほんな科学」

ライプノーベル賞 研究40講
五十嵐杏南 著

「その他の新刊」

- ▼元彼の遺言状／新川帆立
- ▼J.R 上野 駅公園口／柳美里
- ▼母影／尾崎世界観
- ▼コンジユジ／木崎みづ子
- ▼立つ鳥の舞／くらまし屋稼業
- ▼今村翔吾
- ▼あきない世傳金と銀10／高田郁
- ▼旅する練習／乗代雄介
- ▼フシギ／真梨幸子
- ▼公孫龍 巻1 青龍篇／宮城昌光
- ▼ばあさんは15歳／阿川佐和子
- ▼鬼哭の銃弾／深町秋生
- ▼イグジット／相場英雄
- ▼書大を衝け1／豊田美加
- ▼小説秋月鶴山／重門冬二
- ▼花は散つても／坂井希久子
- ▼境界線／中山七里
- ▼アンブレカブル／柳司
- ▼刑事の枷／堂場瞬一
- ▼鼠 十手を預かる／赤川次郎
- ▼ははのれんあい／窪美澄
- ▼ヘルメスの審判／楢岡平
- ▼あなたがはいというから／谷川直子
- ▼アフティベーター／沖方丁
- ▼もろびとの空／天城合戦記／天野純希
- ▼十年後の恋／辻仁成
- ▼紅蓮の雪／遠田潤子 ほか

【ブックテマコーナー】

特集「東日本大震災 10年」
～あれから…今・未来～

戸籍のまど

Asahi town

2月1日～2月28日届出

Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
小 原	塩 谷 千 紗	女	涼・麻里奈
大谷第四	白 田 和 都	男	薫・美佳

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
真 中	遠 藤 心 み	和 春 泰
古 槇	清 野 忠 夫	稔 一 人
立 木	阿 部 か よ	光 弘 人
大谷第四	白 田 時 子	本 昭 一
松 程	阿 部 武 志	本 昭 一
栗木沢	遠 藤 昭 三	俊 美 人
小 原	菅 井 新次郎	本 昭 一
八ツ沼	佐 竹 節 子	昭 本 一
大 町	鈴 木 東次郎	昭 本 一
松 程	阿 部 光 子	き ぬ 正
大船木	佐 藤 健次郎	正 志
西船渡	鈴 木 久 子	正 志

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●令和3年2月28日 現在

※（ ）内は先月比

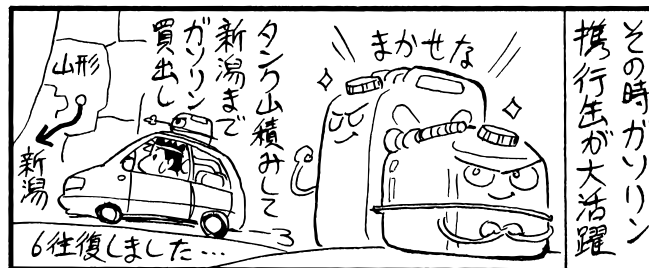
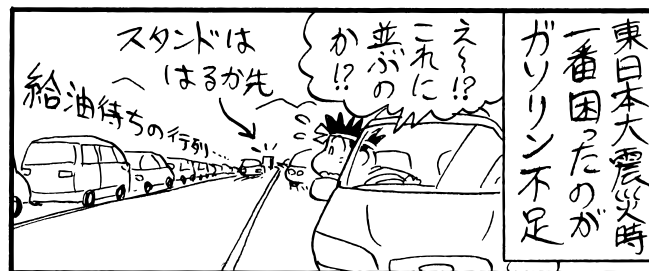
人 口	6,519 人	(-19)
男	3,230 人	(-9)
女	3,289 人	(-10)
世帯数	2,400 世帯	(-1)

----- 2月中の異動 -----

出生	2 人	転入	7 人
死亡	18 人	転出	10 人

(※外国人を含む)

こないのリンゴさん (330) ホリイ



鈴木智也さん(右から2番目)、自衛隊山形地方協力本部山形募集案内所 安達所長(右から3番目)

自衛隊入隊予定者町長表敬訪問

3月2日、町出身自衛隊入隊予定者が鈴木町長を表敬訪問しました。令和3年度から自衛隊に入隊する町出身者は2人内定しており、この日は鈴木智也さん(西船渡)が町長室を訪れました。鈴木町長は「自衛隊員として日本の国土を守ることはもちろん、災害時等における国民の生命と財産を守るため頑張りたい」と激励。それを受けて鈴木さんは「これまで守られる側でしたが、これからは守る側になるということで、国民の皆さんを支えられるように頑張りたい」と決意を語っていました。

桃色ウサヒのグッズが続々登場



エコバック2100円(写真左)、上からバネポーチ(小)900円、ファスナーポーチ1000円、全て税込。バネポーチ(大)は好評につき品切れ

2月13日にウサヒの新グッズ「ウサヒエコバック」「ウサヒバネポーチ(大)」が、25日に「ウサヒファスナーポーチ」「ウサヒバネポーチ(小)」が登場しました。この4種類のグッズはこれまでいくつものウサヒグッズを手掛けてきた町内在住の「町の裁縫お姉さん」が製作。グッズはどれもそれぞれ違うウサヒのスタンプが押されています。グッズを販売する有限会社近江屋の鈴木聡代表は「エコバックは大き目サイズで使いやすく収納袋付。ポーチも小物を入れるのにちょうどいいサイズ感で、今回もかなりのハイクオリティです」と話していました。

問い合わせ先
有限会社近江屋 67-2047

また、2月23日からは「桃色ウサヒの町散歩」マグカップの販売を開始しました。このマグカップはAsahi自然観が製作したもので、以前販売されたウサヒの顔が大きくプリントされたマグカップの第2弾。町に興味を持ち、実際に現地へ足を運んでもらおうと町内の観光スポット8か所をウサヒが巡っているデザインになっています。自然観でスキーを滑るほかにも、ワイン城でワインを飲むウサヒ、りんご温泉に入りご機嫌なウサヒ等かわい表情のウサヒが描かれています。販売価格は1100円(税込)で、ホテル自然観の売店で購入できます。

問い合わせ先
Asahi自然観 83-7111



新規就農PR動画公開



▲町トップページに大きくリンクが貼られています



▲#1の三橋妙さんの動画は500回以上閲覧

2月3日、町ホームページで朝日町での就農をPRする動画が公開されました。この動画は町農林振興課が町内農家の担い手不足という現状の中、新規就農者を確保するために作成したものです。動画は1本約2〜3分で構成されていて12本が公開されています。Uターン(町外へ行った町内出身者が戻ってくる)やIターン(町外から町へ来る)によって就農した方々の「生の声」を紹介。朝日町に就農した経緯や日々の仕事のやりがいについてお話ししています。ドローンを利用した上空からの畑の様子等が撮影されており、視覚的にも面白くなりなっています。動画は町ホームページ(左上写真)から見る事ができます。ぜひご覧ください



町HPへ

北部女性教室

蜜ろうハンドクリーム教室



2月24日、秋葉山交遊館で北部女性教室「蜜ろうハンドクリーム教室」が行われ、10人が参加しました。講師は蜜ろうの専門家であるハチ蜜の森キャンデルの安藤竜二さん（大谷第一）。この教室は昨年も行われていて、手荒れに悩む方に大好評で常連となった方が多く参加しています。

教室ではまず、スライドを見ながら蜂の生態や自然について学びました。その後厳選された蜜ろうとオリーブオイルを湯せんしながら混ぜ合わせて（写真上）、冷まして固まるとハンドクリームが完成。参加者の一人は「来年も来るから必ずまたやってください」と次回開催を熱望していました。



好みに香り付けにアロマオイルを追加する方も



12月24日に、（一社）農山漁村文化協会から安藤竜二さんの著書「手作りを楽しむ蜜ろう入門」が出版されています。日本で初めて蜜ろうキャンドルを製造した安藤さんによる蜜ろうの魅力が丸ごとわかる一冊となっています。ぜひご覧ください。



完成したハンドクリーム。容器一つで1人分の60グラム



秋のアシナガバチは指で撫でてでも刺さないというスライドを紹介する安藤さん

10年前の東日本大震災、今まで体験したことのない衝撃とその揺れの長さに驚きました。次の日の夜、電気が復旧しテレビを付けてみた時の津波の映像は今でも忘れられませんが、朝日町は津波の危険はありません。朝日町は津波の危険はありませんが、地震や大雨その他の災害の可能性は存在します。いざという時の準備だけは欠かさずにいたいです。

春夏秋冬
編集後記

備えあれば憂いなし

た。平時である現時点でこの調子だと実際の災害時にはどれほど「あれがあれば良かった」と思うかわかりません。避難を想定してのキャンプというのも有効なのかと思った次第です。また、旅行中や出張中に災害に遭う可能性もあります。そんな時、文章中にもあるように緊急時の連絡先として「171」があります。こちららも災害時に急に使おうと思っても難しいものです。毎月1日と15日に体験利用ができるようなのでやってみてはいかがでしょうか。

鈴木貴典